第 8 回　ADCT 研究会　参加報告

国立大学法人北海道大学病院　　笹木　工

2017 年 1 月 21 日（土曜日），愛知県一宮市で第 8 回 ADCT 研究会が行われた．会場は「尾張一宮駅前ビル（i-ビル）」である．この名前から，一旦駅を出ると会場のビルはすぐに視界に入るだろうと思っていた．一宮駅の改札を出て出口に向かって歩いていると案内のカードを持っている人がいた．どこかで見たことがある面影…よく見ると辻岡先生だった．「先生，何をやっているのですか？！」と尋ねると，「だって，面白いんだもん」と，先生らしい言葉が返ってきて何故かホッとした．駅と一体化しているビルであったため先生がいらっしゃらなかったら完全に迷うところであった．

今回の研究会では，一般演題の前に昨年の画論 2016 で最優秀賞を受賞された 2 つの施設から表彰者講演ということで発表があった．微細な血管を描出するための工夫，Volume scan でより広範囲を撮影するための工夫などをうかがい知ることができた．諦めずに考えて撮影する大切さを再確認することができた．
引き続き行われた一般演題は 4 題の発表があった．中でも，当院で使用している ONE ViSION Edition との対比がされていた，GENESIS Edition の使用経験を興味深く拝聴した．再構成ユニットを一新したこともあり，FIRST や FBP での再構成時間が高速に行われることを理解できた．当院では AIDR 3D Enhanced も，ましてや FIRST も使えない状況であるのでとても羨ましく思った．また Routine 撮影で多用している vHP であるが，その切り替えがもうひとつ増えていることなどもわかった．あとはスキャノから自動的に肺や骨盤などを認識して，操作者は微調整だけで良いというのが理想である．
また今回の研究会では，初めて東芝以外のメーカーのユーザーから ADCT に関する発表があった．160mm をカバーする撮影範囲を持つ装置…　そう，GE の Revolution CT である．ただ残念なことに，当初案内されていた，0.2s/rot に対応する X 線管や Dual Energy への version up は再度延期になったということで，話題提供がなかったの

が残念であった.
会の最後は，片田和広先生が座長をつとめられて，藤田保健衛生大学 循環器内科の元山先生のご講演であった．元山先生のご講演を拝聴するのはこれで 3 度目である．CT を用いた虚血性心疾患の診断において，先生のご講演はまさに「鉄板」である．理路整然としていて非常にわかりやすかった.
これから発売されるであろう QDCT は，Photon Counting への通過点であるかもしれない．しかしながら今の画像より，一皮も二皮もむけた感がある高空間分解能の CT 画像は, 某テレビアンテナのキャッチコピーのごとく「あぁん，見えすぎちゃって困ァるのォ〜」[1),2)]と思うほどであり，心臓のみならず他の部位でも病態究明に威力を発揮するだろうと思われる．今後が楽しみである.

「呪われた ADCT 研究会」という噂があるらしいが，やはり？今年も帰路の飛行機が飛ぶかどうかが一番重要なポイントとなった．詳細は編集後記に譲るが，一言付け加えさせていただくと，これからは「道民の翼」です！ 根性あります！　とびます，とびますっ！
（翌日の機材繰りのために飛ばさないとダメ??）
ただ，生きた心地がしないほど揺れたことも事実です.

参考文献

1) http://www.maspro.jp
2) https://ja.wikipedia.org/wiki/マスプロ電工